

令和 8 年度第 1 回山県市公共交通会議 議事録

日 時 令和 8 年 6 月 23 日（火）午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分

場 所 山県市役所 3 階 会議室 302

事務局長挨拶

○事務局長：当会議の趣旨について、参考 3「活発で良い議論ができる会議のために。」の P2 に、「『地域公共交通会議』は、地域にふさわしい公共交通をつくりあげていくために、住民、交通事業者、行政など関係者みんなで話し合っ

会長挨拶

○会長：今年は山県市地域公共交通計画の中間年であり、計画の進捗状況を確認しながら、より良い交通体系を目指していかなければならないと思っています。自主運行バスの利用者数はコロナ禍で激減して以降、徐々に回復傾向にありますが、まだコロナ禍前の水準まで戻っていません。計画の基本方針は「どの世代においても住みよい、便利で快適なまちを実現する地域公共交通体系の構築」となっており、住みやすく、便利で快適なまちにするため、市民の皆さんが利用しやすいような交通体系を目指さなければなりません。山県市のまちを人間の体で例えると、道路が血管で公共交通が血液だと思っており、血液が滞ると体に良くないように、市内の道路に多くの公共交通が行き交うことで、まちも元気になり、利便性の向上につながるのではないかと思います。素朴な目線で自由闊達にご意見をいただき、価値ある会議になるようにお願いしたいと思います。

協議事項 1 令和 7 年度事業報告について

協議事項 2 令和 7 年度決算について

○事務局：（資料 1、資料 2 の説明）

○副会長 A：資料 1 の目標 1-2、自主運行バスの維持・見直しについて、神崎山県 BT 線の塩後系統、神崎系統の新設と説明がありましたが、岐北線の路線短縮による代替なので、その事情を記載しておいたほうが良いと思います。

ガイドブックについて、年に 2 回更新し、配布いただいていることは非常に重要かつ効果的であろうとは思いますが、一方で本当に効果的かどうか調べていません。市として、市役所等に設置しているガイドブックがどの程度手に取られて

いるかを把握していれば教えてください。皆さんに見てもらえるように改善の余地を探るという意味では、アンケートを取り、効果があるかを聞いてみてもよいかもしれません。

GTFS データをオープンデータとして公開されているとのことですが、経路検索サービスでの検索数等の実績がわかるのであれば、活用されているかの効果を確認しておいた方がいいと思います。

山県バスターミナルの駐車場を長期利用する場合の利用申請が簡単になったとのことですが、利用実績の変化を把握していれば教えてください。

○事務局：岐北線の代替として運行していることについて、追記します。

ガイドブックの配布数は集計していないため、集計期間を決めて調べたいと思います。

GTFS データを活用した経路検索サービスでの検索状況については、確認できるかも含めて現時点でわからないためすぐに回答できません。

駐車場の利用実績については、集計して報告できるようにします。

○会長：事務局にて資料の軽微な修正を行う可能性があるという条件付きで、この件について、ご賛同いただけますか。

○委員：（異議なし）

協議事項 3 令和 8 年度事業計画（案）について

協議事項 4 令和 8 年度予算（案）について

○事務局：（資料 3、資料 4 の説明）

○委員（岐阜県公共交通課）：資料 3 の事業 3-3、多様な主体と連携した公共交通の PR について、「保育園等に対し、イベント等での移動に自主運行バスを利用するよう案内する」とありますが、事前に申請があったものに対して引率の方や園児の利用料を無料にするということですか。

○事務局：そのとおりです。昨年度に引き続き、園児にもバスに乗っていただく機会を増やす取り組みとして実施します。

○委員（岐阜県公共交通課）：「出前講座にバスの乗り方教室を設け」とありますが、子ども会等の子どもを対象としたものですか。

○会長：対象は絞っていません。出前講座については、公共交通に限らず市の様々な事業があるうちのメニューの一つとして公共交通があるというイメージです。

市内に様々な団体がありますが、その団体から要請があれば職員が出向いて説明するというものです。

○委員（岐阜県公共交通課）：今年度はすでに実施されていますか。

○事務局：今年度はまだ実施していませんが、要請があったため、今後実施を予定しています。

○委員（岐阜土木事務所）：資料 3 の事業 2-2、通学定期券補助制度の創設、事業 2-3、定期券適用範囲の拡大について、山県市内の路線のみが対象ですか。県立高校が全県一区になり、郡上市の子が高速バスを使って岐阜市内に通っているという状況もあります。高速バスを含めバスの乗り継ぎを考慮したダイヤ設定を事業者と調整していますか。

○事務局：山県市内を発着する高速バスは現時点で運行していません。通学定期券補助制度については、あくまでも山県市内や山県市内から岐阜市への通学が対象となります。

○会長：市としても通学定期券補助制度のアピールに力を入れています。現在山県市には高速バスを利用して通学している生徒がいないことから高速バスは対象外となっています。その他、電車も対象外とするなど条件を細かく検討して運用しています。通学定期券補助制度を創設した際に、山県高校への通学には支援せずに市外への通学を後押ししているのではないかという意見がありましたが、市内のバス運賃はゾーン制となっており、岐北厚生病院からでも 100 円で行けるようになっています。岐阜バスのご協力もいただき、朝に岐阜駅からの直通便を 2 本確保しており、バスを利用して通学できる環境を確保しています。決して市外や県外への通学を推奨しているわけではなく、山県高校への通学も推奨していることをご理解いただければと思います。

○副会長 B：資料 3-2. (1) の利用者の少ない区間の路線見直しについての中で、「関係機関と個別に調整を行いながら」とありますが、この関係機関の中に自治会は含まれますか。

路線の見直しにあたり、なぜ利用者が少ないのかのデータをまとめた後に関係機関と協議していただければと思います。

○事務局：関係機関に自治会は含まれます。利用実績を見ながら、利用者の増加に向けて努力した上で見直しを図っていきたいと思っています。

○会長：2 件の協議事項について、ご賛同いただけますか。

○委員：（異議なし）

協議事項 5 令和 9 年度地域公共交通確保維持事業に係る山県市地域公共交通計画の別紙（案）について

○事務局：（資料 5 の説明）

○副会長 A：資料 5 の「3. 令和 9 年度のスケジュールについて（予定）」について、令和 10 年までの予定が書かれていますが、この時系列は正しいですか。

○事務局：令和 8 年 6 月に計画別紙を策定した後、令和 8 年 10 月から令和 9 年 9 月まで事業が実施されます。令和 9 年 11 月に令和 9 年度の事業に対して補助金の交付申請を行い、令和 10 年 3 月に国から補助金が交付される流れです。

○会長：この件についてご賛同いただけますか。

○委員：（異議なし）

報告事項 1 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果

○事務局：（資料 6 の説明）

○委員（岐阜運輸支局）：期待する取組として 3 点挙げていますが、今後の伸びしろがある部分となるので、利用者の観点で改善を図ってほしいと思います。データの活用や市民ニーズの把握を踏まえた路線の見直し、利便性の向上策、乗り継ぎ拠点である山県バスターミナルの利用環境の改善を図ってほしいと思います。引き続き、協議の場を通して委員の皆さんの意見を出し合いながらより良い公共交通を構築していただけたらと思います。

報告事項 2 高校生等通学定期券購入補助制度について

○事務局：（資料 7 の説明）

○委員：（質問なし）

その他

○委員（岐阜運輸支局）：9 月 19 日から 10 月 24 日までアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催され、岐阜県内の競技会場でも大会が行われる予定となっています。会場周辺は道路の混雑が予想されることから、自家用車の利用を控えていた

だき、公共交通を利用していただくなど交通の混雑緩和にご協力いただきたいと思います。また、大会期間中はテレワークや時差出勤など通勤時間の分散にもご協力いただきたいと思います。公共交通も臨時ダイヤや迂回運行となることが予想されるため、事前に情報を収集いただき、計画的に移動していただくようお願いいたします。大会の円滑な運営、快適な都市環境を実現するため皆様一人一人のご理解・ご協力をお願いします。

○委員（岐阜県バス協会）：本日、バス業界就職支援パンフレットを配布しました。運転手不足が顕著になっており、大手の事業者ではそれぞれの会社説明会のパンフレットが作成されていますが、中小の事業者では作ることができません。このパンフレットでは、バス事業の役割、バスに関わる職種、運転手になるための教育メニューや大型二種免許取得に対する補助金制度のほか、バス事業の安全性の見える化、安全性評価認定制度を詳しく説明しています。パンフレットをイベントや公共交通会議で配布し、バス事業の広報資料として活用する予定です。バス協会では、8月29日に運転手の体験会を行う予定となっており、教習用のバス車両を使用し、運転やマイク案内を体験いただける機会を設けます。このような情報の広報を県から各市町に広めていただき、一人でも多くの方に運転手になっていただきたいと思います。免許返納を検討する年代の方がまだバスの運転手をしているという現状もあるので、若い方を増やすためにもこのような事業にご協力いただきたいと思います。

○副会長 A：今年度も様々な取り組みを実施する予定となっていますが、自治会や地元の方の意見を聞くことは非常に重要だと思います。中部運輸局の二次評価結果の中で、市民ニーズの把握や属性分析を行ってほしいというコメントがありましたが、データが重要という意味だと思います。来年度には次期計画の調査を実施し、再来年度に計画策定となりますが、交通系 IC カードのデータを用いた分析ができれば効果的だと思うので検討いただければと思います。

○副会長 B：データ分析の結果があった上で、路線再編等の協議が成り立つと思うので、その点を留意の上検討してほしいと思います。

○事務局：次回の開催について、令和9年1月中旬を予定しています。

以上

